

立教開宗
850
年



第199号

令和6年
9月3日発行
秋彼岸号

西光



No 仏教, No Life

あればあるにつけて憂い悩む

浄土宗立教開宗850年に際し

少しだけ浄土の教えを

門前掲示板 一言法話

坊主のつぐやき

秋彼岸会のご案内



浄土宗西山禅林寺派
雲龍山 西光寺 住職 大塚靈閑

〒671-0101 姫路市大塩町229番地

☎ 079-254-0351(Tel)

☎ 079-254-4142(Fax)

✉ otsuka@saikouji-himeji.com

🏠 <https://saikouji-himeji.com/>



HP



LINE

No 仏教, No Life

あればあるにつけて
憂い悩む

田があれば田に悩み、家があれば家に
悩む。牛馬などの家畜類や、金銀・財宝・
衣食・器物、さては召使いに至るまで、
あればあるにつけて、憂い悩む。

『無量寿経』

モノから人間関係に至るまで、あればある
ほど悩みも尽きないとブツダは言います。釈
迦族の王子として、贅沢な暮らしぶりを見
てきたからこそその言葉かもしれませぬ。欲
が満たされていくと同時に、既に悩みの種
も発生してしまっているのです。

私たちが普段何らかの用途に使うものを
「道具」といいますが、これは仏教用語です。
「仏道修行のための用具」という意味で、修
行僧の持ち物を指しました。「三衣一鉢」と
いわれるものです。三つの衣は、めっちゃえ
えのん(正装、晴れ着)、ええのん(仕事着・普
段着)、作業着の三種類。

そして鉢はいわゆる食器なのですが、かつ
てインドでは僧は自分たちで畑で野菜を
作ったり、食事を作つてはいけませんので
ので、村に托鉢(たくはつ)に出て施しを頂いたので

食料を得ていました。ですのでその食べ物
を入れてもらう鉢は大変大事なものであつた
のです。以上です。僧の私有財産は以上で
す。「え!?それだけ?」いくら所有欲をなく
すといつてもあまりに極端な気が…上記四
つに加え、座具(ざぐ)座る時に下に敷くものと
漉水囊(ろくすいぶくろ)飲み水を濾すための袋を加えて、
「六物」ということもあります。これ以外の
ものは、余計なもの=長物(ながもの)といいました。ま
さに無用の長物です。そう考えますと、かつ
てインドにおける、修行僧やサンガ(僧侶の
集団)への布施や寄進の重要性が自ずと分
かります。

所有することが更なる所有欲と執着を生
み出し、それにより自分自身を悩み苦し
めることになることを見抜かれたブツダに
は敬服いたします。





浄土宗立教開宗八五〇年に際し 少しだけ浄土の教えを

禅は体験です。一滴の水の尊さに
ついて別に教えません。毎朝の洗面
は茶柄杓で片手に水を受け、ネコが
顔を洗うように洗います。こんな不
自由を半年も続けますと、それまで
洗面器にいっぱい水を入れて使った
時の有難さが、ひしひしと身に付い
てきます。一滴の水の尊さを体験す
ることで、多くの恵みを受けている
ことに気づいて感謝の気持ちがい
てきます。禅修行の第一歩で、ここ
に顔を洗う本当の意味があります。

浄土の教えといえながら、いきな
りある禅の修行僧(雲水)の言葉で
す。私も僧侶になる際の加行(修行)
を終えた時に同じ感覚を持ちまし
た。修行は一見「非日常」に見えるの
ですが、その本質は日常的な行いを
決められた所作のもと丁寧にいう
繰り返しです。そういう意味ではむ
しろより「日常的」なのです。身を以
て体験することで、幸せというもの
は、与えられるものでも、求めるも
のでもなく、自ら作りだすものだ
といふことになっていきます。

修行中は無心です。嘘です。たま
に、いや頻繁に雑念は入ります。し
かし目の前にあること、やるべきこ
とを淡々とこなしていく中で、いか
に煩惱にまみれた生活を送っている
かに気づきます。そういう私たちの
ことを凡夫といえます。平凡な夫で
はありません。怒り憎しみ、欲深さ
など持ち合わせていると自分が苦
しむようなものを煩惱といえます
が、そんな煩惱にまみれた人のこと
を凡夫といえます。この認識とい
いますか自覚が第一歩なのです。こん
な至らない私でも救われる教えは
ないものか、ということでは登場し
てきたのが浄土宗であり、南無阿弥
仏というお念仏の教えなのです。
「あ、あなた凡夫ですね。どうぞお引
き取り下さい」では困るわけです。
むしろその逆です。煩惱だらけ、修
行もできない、信心もない、そんな
私たちでも「放っておけない」と、
仏の方から手を差し伸べてくださ
る。なんと寛容な…

それは仏さまの姿にも表れていま
す。本山永観堂のご本尊、みかえり
の阿弥陀様のお顔は正面を向いて
おらず、左後ろを振り返っておられ
ます。その振り向きは、後から付い
て来る子供を見守る母親の優しい
眼差しのようなです。また西光寺のご
本尊の阿弥陀様はかなり前のめり
で、倒れそうな程の前傾姿勢で、左
足を半歩前に出されています。この
お姿は「今すぐにもあなたのもと
へまいりますよ」という仏の強い思
いの表れです。仏さまは放っておけ
ないのです。



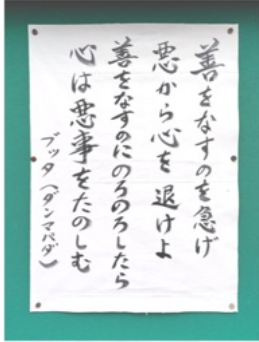
西光寺のご本尊
阿弥陀如来



本山永観堂のご本尊
みかえりの阿弥陀如来

門前掲示板

一言法話

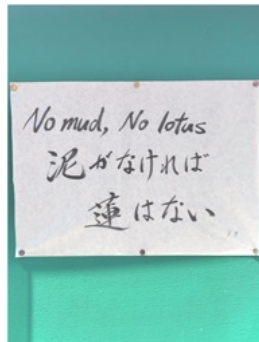


7月

耳が痛い言葉です。「善は急げ」ということわざはよく知られています。このブツダの言葉にはなぜ急がねばならないのかが説かれています。

今を生きる人、ホリエモンこと堀江貴文氏は言います。「将来の事を考えるのは時間の無駄。なぜなら将来は不安なことばかりだから」

私たちは一度立ち止まって考えだすと、必ずリスクや負担、また実行しない言い訳ばかり考えてしまいます。「急いで事は仕損じる」ということもあります。が、「善」だけは急ぎましょう。



8月

オリンピックが閉幕しました。メダルが選手一人ではなく周りで支える方々の夢でもあるところに、勝者も敗者もそれぞれのドラマがあり胸を打たれました。

仏教で華といえば蓮。蓮のいのちは一日。泥の中からす〜っと伸びて、ふわ〜と咲いて、一瞬の輝きを見せてひらひらと散る。あまりに儂いドラマです。そんな崇高で可憐な蓮の華も泥なしには存在しえません。華を咲かせることができなくとも、その辛い経験や喪失感、悔しい思いが次に華を咲かせる糧になります。同じ立場にある者の気持ちを理解できるようになります。新しい世界が見えるようになります。泥は心を豊かにさせ、人を何倍も成長させます。ブツダが示すのは、否定し、忘れ、避けるのではなく、受け止め、抱えて生きる生き方です。



9月

イチローは常日頃の準備を重視しました。イチロー曰く、準備というのは、言い訳の材料となり得るものを排除していく、そのために考え得るすべてのことをこなしていくのだと。スポーツ選手につきものの怪我もイチローには無縁でした。運悪く怪我をしてしまったということではなく、怪我をしないように常日頃から身体の調整を心がけていたのです。

古来より仏道を歩む僧侶の心得として「一掃除、二勤行、三学問」という言葉があります。なすべきことを常日頃より一つ一つ丁寧にしっかりとこなしていく。やはり常が大事なのです。

懐かしの煙草盆たち



懐かしの煙草盆。昔の写真には、僧侶やお参りの方々の座布団の前には煙草盆が用意されています。20個以上あるでしょうか。火鉢もしかり。湯呑や座布団なども百単位であるけれど…。皆様のお宅にも懐かしの品、たくさん眠っておいでのことと思います。

小粋な脇役



あるお宅の満中陰にお参りしましたら、ステーキが御供えてあります。ロウソクのカメヤマが出している故人の好物シリーズのキャンドルで、スイーツからお酒まで実に多種多様なラインナップがあります。ええもん食べさせてあげたいというご家族の気持ちがなんと微笑ましい。脇には初盆用にうな重が既に用意されていました。

蚊も動けない暑さなんて…

こないに暑いお盆ですとご先祖さま「帰るのやめとこか」となりはしないかと心配しましたが、今年もお盆が無事に終わりました。

夏場の悩みの一つといえば蚊。「蠅一つ 打っては南無阿弥陀仏かな」(小林一茶)といきたいところですが、パチンとしますと「あ、坊さんが殺生した！」となります。読経中にゴソゴソするのもみっともない。甘んじて刺されるしかないのです。

というわけで、夏場はムヒを携帯しています。それが今年はお参り中に全く蚊に刺されないのです。蚊も30℃を超えると徐々に動きが鈍くなり、35℃以上になると、草木の葉の裏などの日陰に身を潜めているとのこと。蚊も動けない暑さって…。

お坊さんの持ち物で、払子という道具があります。もとは蠅や蚊、埃などを払うためのものでしたが、今はお葬式など一番の正装をする時に持つ象徴的な法具となっています。間違っても、はたきではありません。



坊主の つぶやき

いよいよ次回…

寺報『西光』は先代住職が昭和48年にはじめて以来50年の月日が経ち、いよいよ次回の十夜号は記念すべき第200号です。しかし感慨に浸る間もなく、来月また出さねばなりません…ネタ作りに追われつつ頑張ります。どうぞお楽しみに♪



かえるとき

来たときよりも美しく

先般の本山永観堂での法然上人立教開宗850年慶讃法要にお参りさせて頂いた折、ご法主猊下のご法話の中でありましたお言葉です。

せっかく今日お参り頂いたからには、お念仏の教えに出逢い、より一層美しく、浄らかな心で、お帰り頂きたい。そして、お浄土へ還る時には、生まれてきた時よりも、仏の教えに出逢えた分、より一層美しく、浄らかな心で、かえっていききたいものですね。



逝去の報

白浜	天野通康さん(76歳)	令和6年7月7日寂
中ノ丁	八若豊久さん(68歳)	令和6年7月10日寂
明石	木下恵子さん(74歳)	令和6年7月18日寂
白浜	川原和子さん(96歳)	令和6年7月28日寂
明石	井澤潔さん(79歳)	令和6年8月28日寂
中ノ丁	赤尾重子さん(94歳)	令和6年8月30日寂
佐土新	梶原武司さん(69歳)	令和6年8月31日寂

秋彼岸会

今日彼岸 菩提の種を 蒔く日かな



日時

9月21日(土)

- 午後1時～ お勤め
- 午後1時半～ 塔婆回向
- 午後2時～ お説教
- 午後3時～ 塔婆回向

とうばえこう
<塔婆回向について>

西国33ヶ所の御詠歌をあげながら、ご先祖の供養をいたします。ご希望の方は当日世話人席にてお申込み下さい。戒名(〇〇家先祖代々、分からない場合は俗名でも構いません)と施主名(お申込みの方のお名前)をメモしてお持ち頂くとスムーズです。1霊300円です。お参りの際に住職にお渡し頂いても結構です。

檀信徒の皆様はもとより、どなたでもお参りいただけますので、お誘いあわせてどうぞお参り下さい。

説教師

たつの市 恩徳寺住職 猪澤良秀師

この度のお説教師は、いつも法要やお参りでお世話になっております、たつの恩徳寺のご住職、猪澤良秀師です。恩徳寺は722年(奈良時代)開創の古刹で、実に1300年の歴史を有します。たつのお盆の風物詩「さいれん坊主」は恩徳寺が舞台です。もとは雨乞いのための火祭りのようですが、播磨の奇祭ともいわれ、今春、県登録無形民俗文化財に指定されました。

◆ 十夜会

十一月十七日(日)

午後一時～

◆ 除夜の鐘・修正会

十二月三十一日(火)

午後十一時四十分頃～

今後の行事予定